

中間評価用 公立大学法人横浜市立大学の中間評価における業務の実績報告書（案）

	中期目標	中期計画	自己評価				自己評価の説明 (19年度末の達成状況)	中期計画の達成に向けた課題 及び解決するための方策	指標等										
			⑰	⑱	⑲	中間 評価													
前 文	大学の基本的な目標 横浜市立大学が、市が有する意義のある大学として、市民が誇りうる、市民に貢献する大学となること。更には、発展する国際都市・横浜とともに歩み、教育に重点を置き、幅広い教養と高い専門的能力の育成を目指す実践的な国際教養大学となること。 この2つの目標を実現するため、「教育重視・学生中心・地域貢献」という基本方針のもと、大学が自主的・自立的に運営され、教育・研究が更に活発に進められることを目指し、具体的な中期目標を定める。																		
第 1	中期目標の期間 平成17年4月1日から平成23年3月31日までとする。																		
第 2 1	教育研究上の基本組織 次のとおり大学の教育研究上の基本組織を置く。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">学部</td> <td>国際総合科学部 医学部</td> </tr> <tr> <td>研究科</td> <td>国際総合科学研究科 医学研究科</td> </tr> <tr> <td>研究院</td> <td></td> </tr> <tr> <td>病院</td> <td>附属病院 附属市民総合医療センター</td> </tr> <tr> <td>研究所</td> <td>木原生物学研究所</td> </tr> <tr> <td>学術情報センター</td> <td></td> </tr> </table>	学部	国際総合科学部 医学部	研究科	国際総合科学研究科 医学研究科	研究院		病院	附属病院 附属市民総合医療センター	研究所	木原生物学研究所	学術情報センター							
学部	国際総合科学部 医学部																		
研究科	国際総合科学研究科 医学研究科																		
研究院																			
病院	附属病院 附属市民総合医療センター																		
研究所	木原生物学研究所																		
学術情報センター																			
第 3 1	大学の運営に関する目標 幅広い教養と専門能力と専門能力の育成を目指す教育を重視する大学として、教養教育と専門教育を有機的に連携させ、21世紀をきり拓く力を育てる「実践的な教養教育」を行い、時代の変化に対応しつつ社会を支えていく人材の育成を図る。	I 大学の運営に関する目標を達成するための取組																	
第 3 1 (1)	学部教育の成果に関する目標 国際総合科学部と医学部の両学部を通じ、自らの課題を見つけ探求する姿勢と様々な問題に対して解決する能力を備え、幅広い教養と高い専門的能力、豊かな人間性・倫理観を兼ね備えた人材の育成を行う。 国際総合科学部では、共通教養教育と併せ、専門教養教育(専門分野に即した高度の教養教育)を行い、「実践的な教養教育」を実施し、国際的視野を有する人材を育成する。また、社会情勢の変化に合わせコース等の見直しを行う。 医学部では、「実践的な教養教育」の主旨を、医学及び看護学の専門教育に結びつけるとともに、プライマリーケア※(初期的な総合診療)から先端的な医療に対応しうる質の高い教育の実現を図る。 ※プライマリーケア: 病気の初期診療。第一次診療。	I 1 (1) 教育の成果に関する目標を達成するための具体的方策 個々の学生が自分に固有のテーマを見出して、 「自己の発見、自己の確立」が可能になるような「能動的な知」の獲得を目標とする全学共通の教養教育を全学部生を対象に実施し、 その成果を基礎に、各学部において、専門教養教育・専門教育を行う。 【教育の成果】 <共通教養教育> 国際総合科学部、医学部の枠を越えて 全学生が「幅広い教養と高い専門的能力、豊かな人間性・倫理観」を習得することができるベースとなる教育を行うことを目的とする。 そのため共通教養教育を「問題提起」、「技法の修得」、「専門との連携」の科目群により構成し、 それらの科目群に属する各科目が円滑に実施され、 高い教育効果を実現するよう教員間の連携を図る。 <専門教養教育・専門教育> 〔国際総合科学研究部における専門教養教育〕 国際総合科学研究部においては、従来の大学教育ではその有機	A B C D A B C D A B C D A B	A B C D A B C D A B C D A B	A B C D A B C D A B C D A B	A B C D A B C D A B C D A B													

中期目標	中期計画	自己評価				自己評価の説明 (19年度末の達成状況)	中期計画の達成に向けた課題 及び解決するための方策	指標等
		⑰	⑱	⑲	中間 評価			
	<p>的連携が充分ではなかった教養教育と専門教育を結びつけたトータルな教育を積極的に実施し、幅広く高度な教養を身に付け、かつそれを人文科学、社会科学、自然科学のさまざまな分野を総合し、国際的視野に立って、実践的に応用できる資質をもった人材を育成する(実践的な教養教育)。</p> <p>①専門教養教育の各コースの教育目標を達成するために作成した各コースの履修基本モデルをもとに、実際の学生指導に必要な教育内容及び教育方法の完成を目指す。</p> <p>②コース・履修モデルは、社会情勢の変化、学生のニーズ等により変わりうるものであるため、設置するコース、定員、授業科目、履修モデルについては、社会状況を踏まえながら、平成17年度の新入生の卒業時を目途に見直す。</p>							
	<p>〔医学部における専門教育〕</p> <p>医学部においては、プライマリー・ケア(初期的な総合診療)と先端医療の進歩に対応できる専門的な知識と高度な技術とともに、生命倫理や尊厳の理解に基づく豊かな人間性、高い倫理観、医療システムの理解に基づく問題解決能力を備えた医師及び看護師・保健師を育成する。</p>							
	<p>(医学科)</p> <p>①優秀な臨床医を育成するため、また個人の能力に応じた問題解決能力の開発を図るため、クリニカル・クラークシップ※(診療参加型実習)ならびに少人数グループに基づくPBL※(問題基盤型学習)を取り入れる。</p> <p>※クリニカル・クラークシップ: 学生が指導医や研修医で構成される診療チームに加わり、診療することを通して、臨床能力を身につける臨床実習方式。</p> <p>※PBL: (Problem Based Learning) 問題解決型授業。教員はまず学生に課題を出す。このとき幾つかのインストラクションはするが、あくまで学生が自主的に学習して授業の準備をする。1つのテーマに対して、幾つかのグループに分かれて作業を分担し、主に学生同士の質疑応答で授業は進行する。教員の発言は10%以下にするというのが原則。</p> <p>②「医学教育モデル・コア・カリキュラム」に基づき導入した本学独自のコア(必修)及びアドバンスト(選択)カリキュラムを見直し改善する。</p>							
	<p>(看護学科)</p> <p>高度医療に対応でき、地域医療でも指導的役割を果たせる看護師・保健師を育成するため、新たに設置された4年生の看護学科として、教育内容の充実に努めるとともに、医学科、附属病院、地域保健医療施設と連携を推進する。</p>							
	<p>【教育の成果・効果の検証】</p> <p>①学生の学習支援を強化することにより、休学、退学、留年を減少させる。</p> <p>②医学部では、併せて医学科学生の国家試験の高い合格率を維持するとともに、看護学科学生の国家試験の高い合格率とその維持を目指すため、教育内容・方法及び進級判定方法の見直しを継続して行う。</p>							